

介護現場革新会議

三重県におけるパイロット事業について

令和2年3月5日
三重県医療保健部

パイロット事業① 介護助手の効果的な導入方法の検討

- 三重県では、三重県老人保健施設協会が平成27年度から介護助手を他県に先駆けて導入。
- 今般、三重県老人保健施設協会のノウハウ、導入経験の長い多くの施設の協力、東京都健康長寿医療センター（社会参加と地域保健研究チーム（チームリーダー：藤原佳典氏））の専門的知見を結集し、介護助手の効果的な導入方法を検討する。

介護助手

地域の元気な高齢者を「介護助手」として育成し、介護の周辺業務を担っていただくことで、介護職員が本来の業務に専念できるようにするとともに、高齢者の就労先の確保と介護予防を図る取組。



これまでの取組

<県内の導入事業所数>

計44施設

老健(H27～)：30施設 特養(H29～)：12施設
認知症GH(H30～)：2施設

<導入支援>

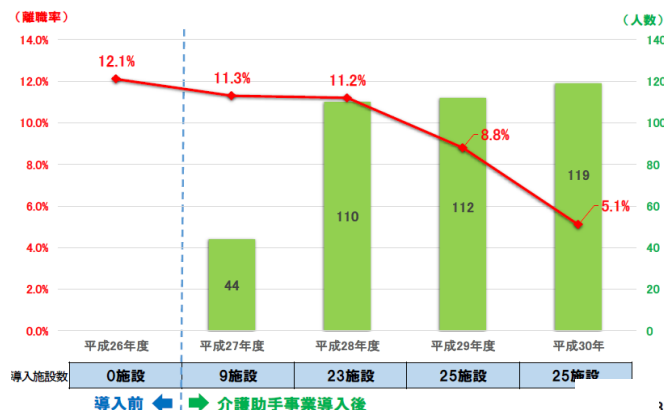
介護助手の更なる普及のため、平成30年度に事業所向けのマニュアルを作成・公表（業務の切り出しや募集・就労の際のポイント等を記載）

<全国的な広がり>

25都道府県で実施（H30.4現在、全老健調査）

効果的な導入に向けて

三重県老人保健施設協会の調査によれば、介護助手を導入した25の老健施設全体で、離職率の低下が見られる。



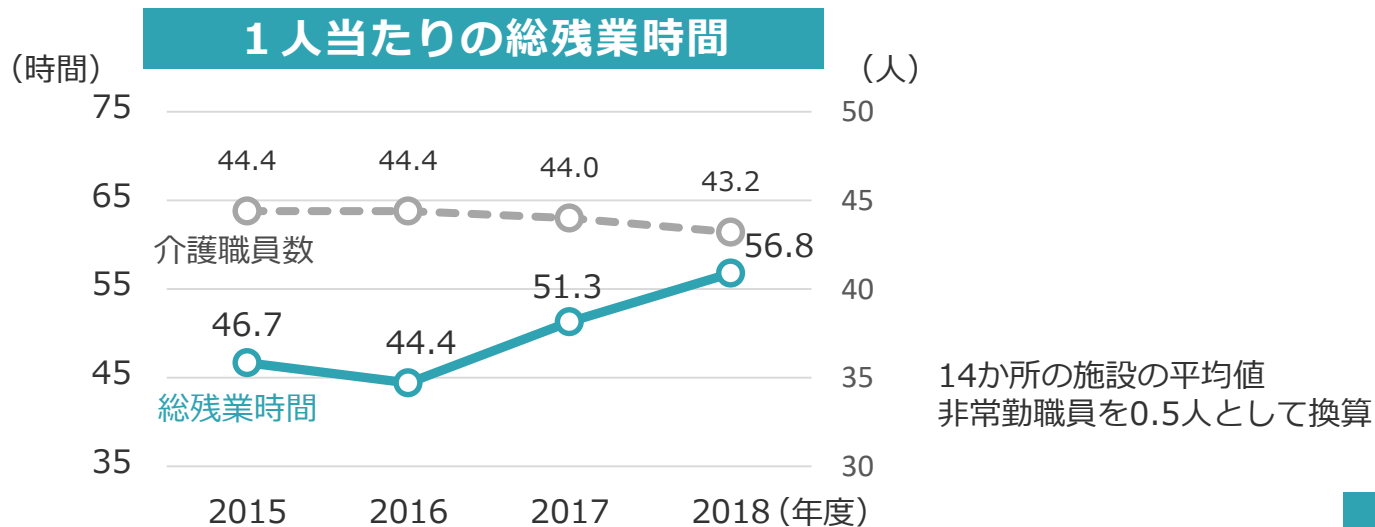
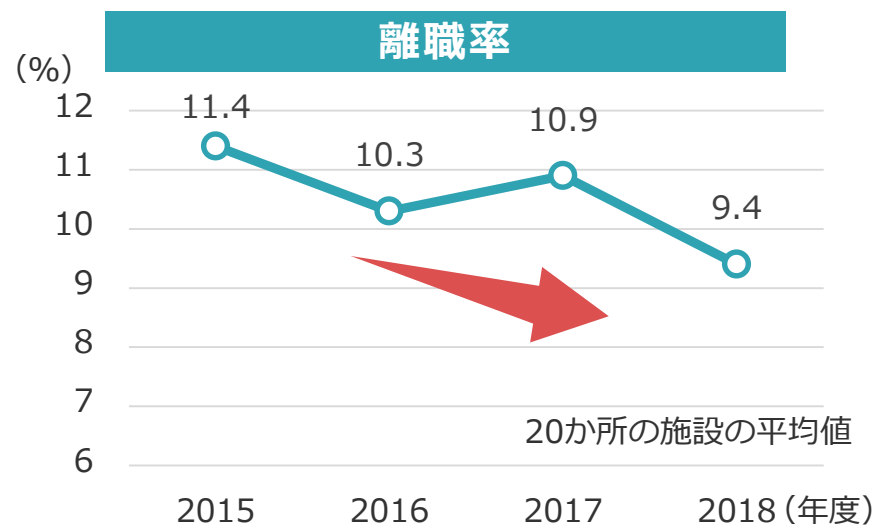
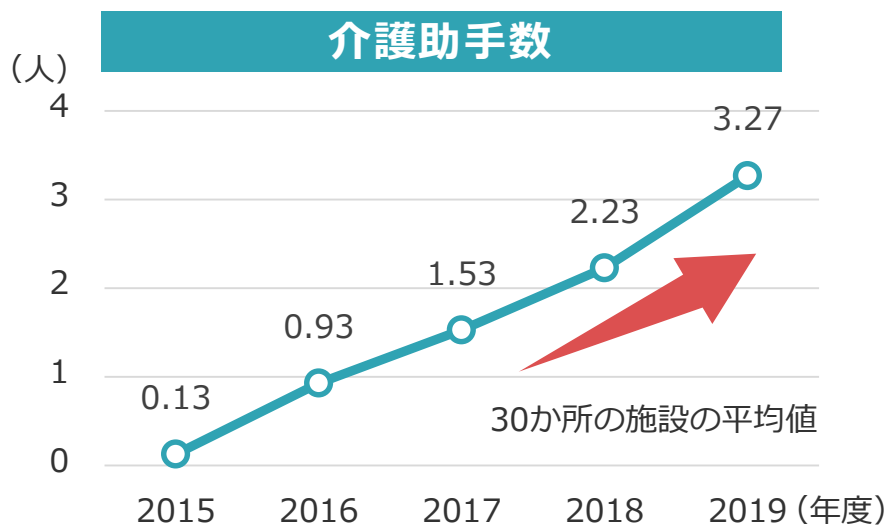
マニュアルを用いて介護助手の導入・定着を図りつつ、個々の施設において、介護助手をどの程度配置すれば、どのような改善(アウトカム)が期待できるかなど、介護助手の効果的な導入方法を検討。その成果を施設に周知する。



※ 社会参加と地域保健研究チームでは、高齢者の社会参加等に関する研究の他、先般、全老健とともに、介護助手のリーフレットの監修を行っている。

介護職員の離職率等

- 介護助手の増加に伴い、介護職員の離職率の低下が見られ、職員の定着に効果が認められた。
- なお、1人当たりの総残業時間についても把握したが、介護職員数の減少や他の要因が影響している可能性が推測される。



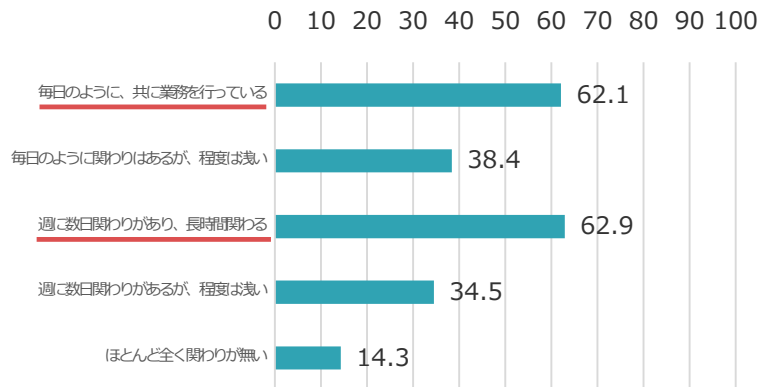
介護助手が介護職員に与える影響①

- 介護助手が介護職員に与える影響については、業務上の関わり合いが多いほど、職員の雰囲気の良さや仕事ぶりへの満足度が高い傾向が認められた。
- 介護職員が挙げる介護助手導入のメリットについては、「介護職員の業務量軽減」、「介護業務の効率性向上」、「介護職員が気持ちにゆとり」が上位を占めた。

介護助手と関わる頻度別の影響

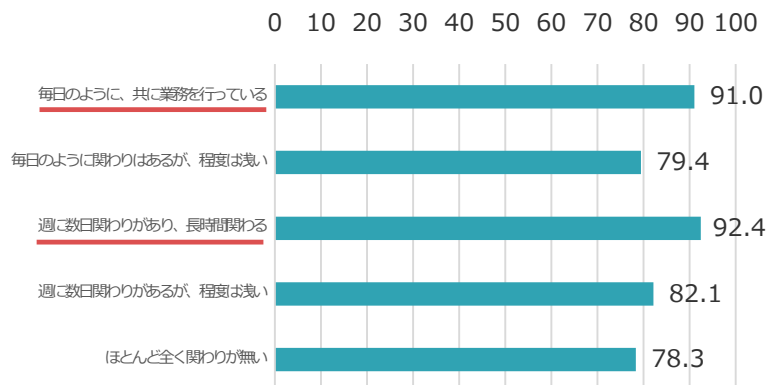
介護職員の雰囲気の良さ

(%)



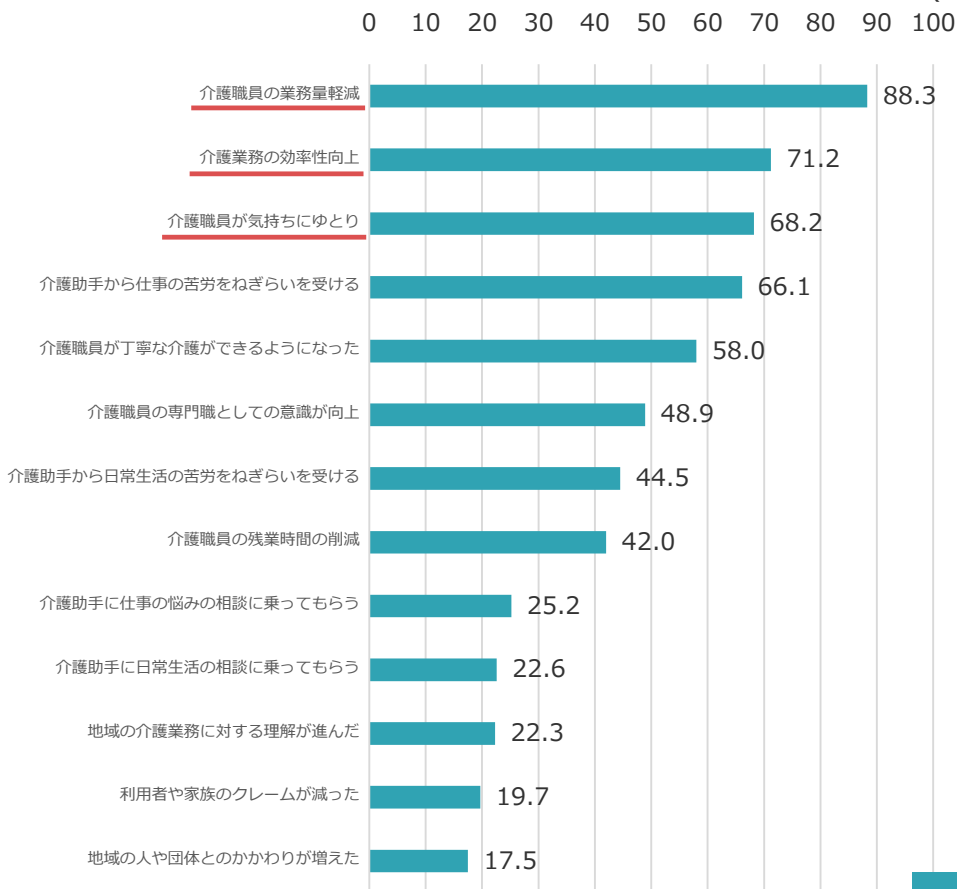
介護助手の仕事ぶりに対する満足度

(%)



介護職員が挙げる介護助手導入のメリット

(%)



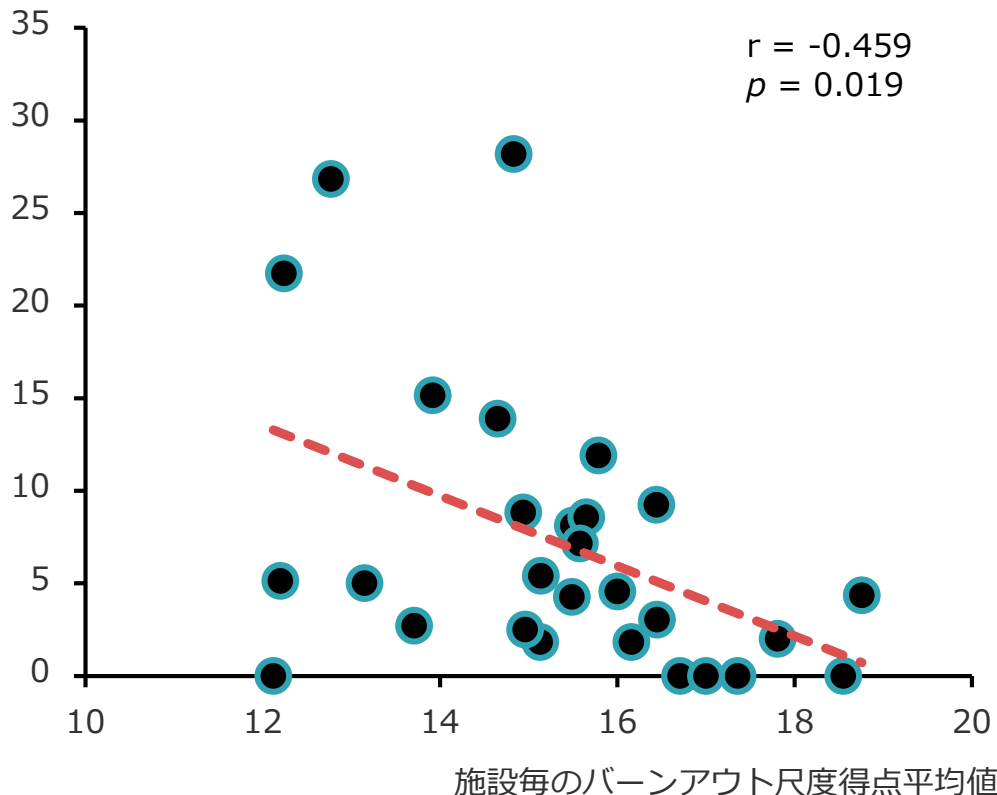
(複数回答)

介護助手が介護職員に与える影響②

- 介護助手の配置割合と介護職員の消耗感との間に負の相関関係が認められ、**介護助手の配置割合が高い施設ほど職員の業務に対する消耗感が低いことが明らかになった。**

介護助手の配置割合と介護職員の消耗感の関係

施設毎の介護助手配置割合
(28施設+現役介護スタッフ840名)
(%)



<バーンアウト尺度>

仕事を通じて、情緒的に力を出し尽くし、消耗してしまった状態を測定する尺度であり、高い値ほど消耗感が強いことを示す。得点は5点～25点。

- ①「こんな仕事、もうやめたいと思うことがある」
- ②「1日の仕事が終わると「やっと終わった」と感じることもある」
- ③「出勤前、職場に出るのが嫌になって、家にいたいと思うことがある」
- ④「仕事のために心にゆとりがなくなったと感じることがある」
- ⑤「体も気持ちも疲れはてたと思うことがある」

それぞれの質問に対し、「ない」から「いつもある」の5件法で回答してもらい、ネガティブな回答から5点ずつ配点し算出（即ち①の質問では、「いつもある」が5点、「ない」が1点）

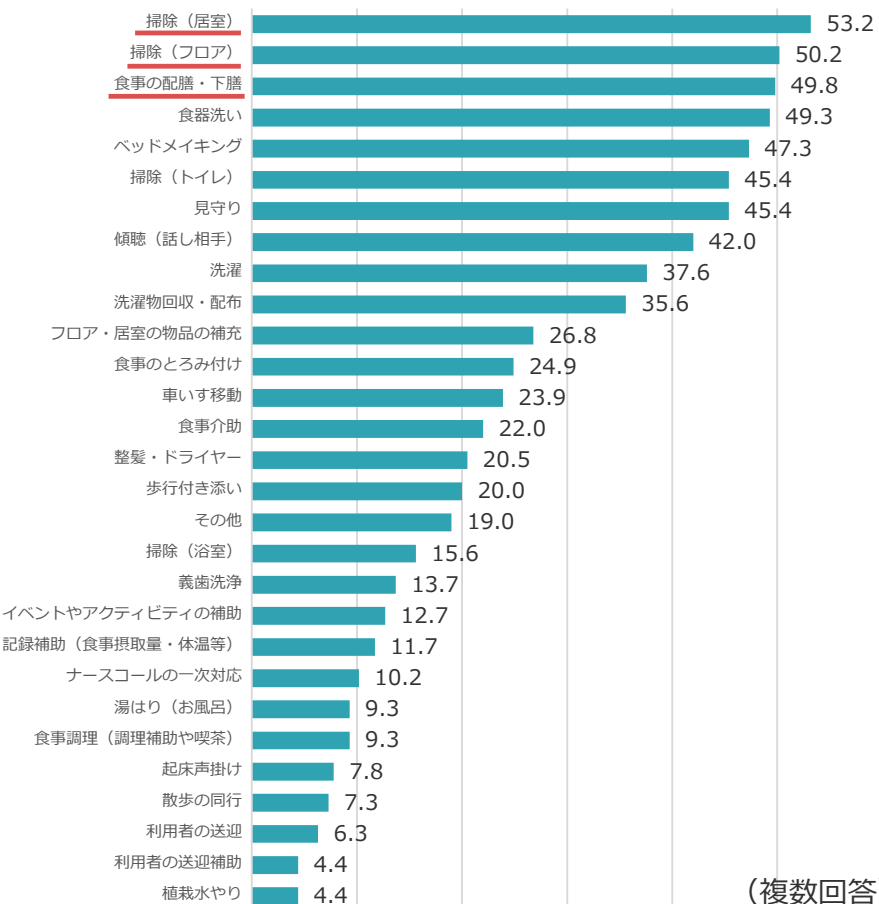
介護助手の仕事と認識

- 介護助手が従事している仕事については、**掃除や食事の配膳・下膳が上位を占めるとともに、多岐にわたる役割を担っていることが明らかとなった。**
- 仕事に対する認識については、**「利用者のためになっている」、「健康維持になっている」などが上位を占めるとともに、総じて肯定的な感情を抱いていることが明らかとなった。**

従事している仕事

(%)

0 10 20 30 40 50 60

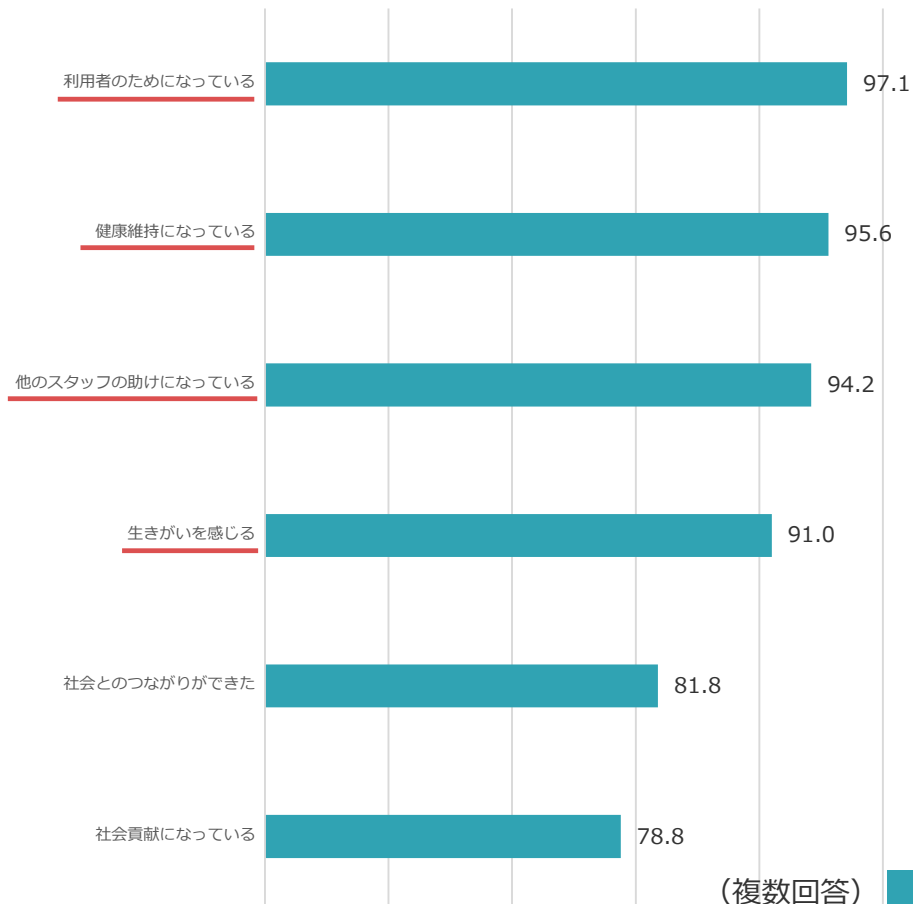


(複数回答)

仕事に対する認識

(%)

50 60 70 80 90 100



(複数回答)

パイロット事業② インカムを活用した介護業務の負担軽減

○県内でモデル施設として3施設（特養1施設、老健2施設）にインカムを導入し、**業務負担の軽減効果を把握する。**

介護ロボット・ICT

- 介護ロボットやICTについては、負担軽減効果が未知数・費用負担が大きい等の面から導入が進んでいない。
- 近年、県内で導入が進んでいるのは見守り機器のみであり、抜本的な負担軽減につながっているとは言えない状況。

インカムの選定理由

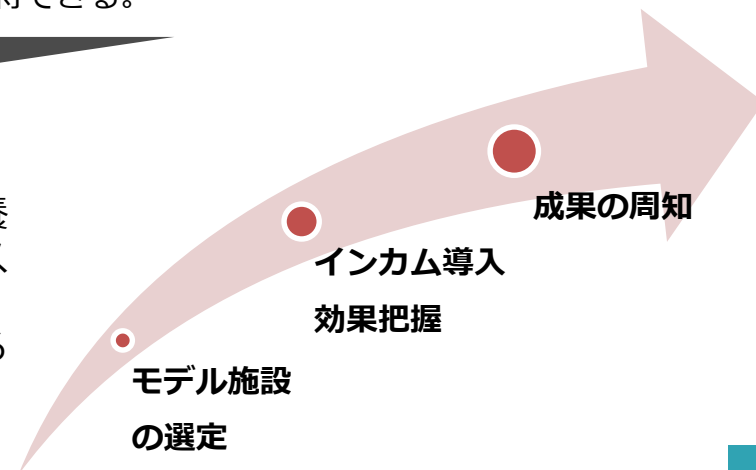
1. フロアが別の職員と会話する必要がある場合などに、**移動することなくコミュニケーションを取ることができる**
2. 携帯電話とは異なり、入所者の容体が急変した場合など、**緊急時でも作業を行いつつコミュニケーションを取ることができる**
3. 携帯電話とは異なり、**一度に多くの職員とコミュニケーションを取ることができ、チームケアの効率化に資するものである**
4. 使用方法が難しくない比較的安価な機器もあると想定され、**介護事業所にとって導入のハードルが低いと考えられる**

こうした特徴から、インカムの導入により業務負担がどの程度軽減されるのかが明らかになれば、多くの介護事業所への導入を図ることにより、介護業界全体の業務負担の軽減を図ることが期待できる。

介護業務の負担軽減に向けて

実際にインカムを導入するモデル施設として、県内で特養1施設、老健2施設の計3施設を選定し、一定期間タイムスタディを実施する。

インカムの導入による介護業務の負担軽減効果を把握するとともに、その成果を施設に周知する。



各施設におけるインカムの導入状況

- インカムを導入した3施設について、導入方針、フロアの構造、対象職員、WI-FI環境の有無等に応じて、その施設に最適な導入方法を検討し、以下のとおり決定。

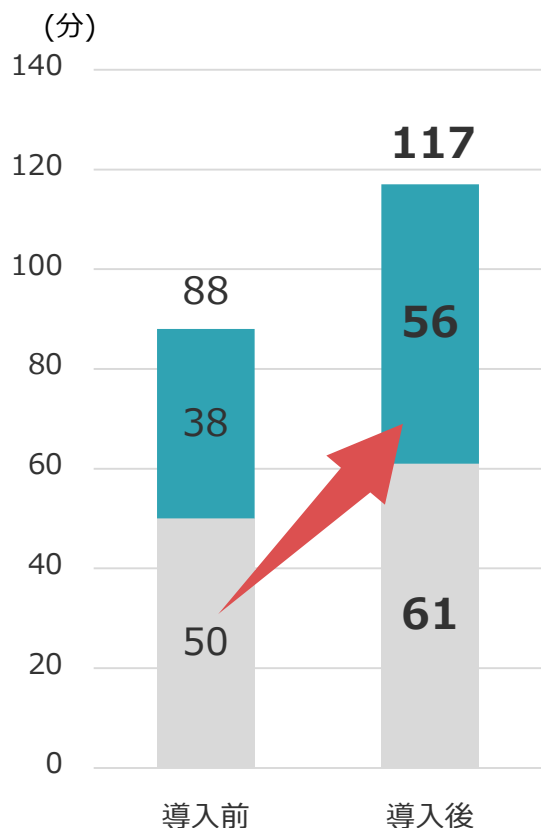
	介護老人保健施設いこいの森	介護老人保健施設カトレア	小山田特別養護老人ホーム
導入方針	各フロアの利用者属性によるインカムの導入効果を比較検証	認知症専門棟への導入効果及び排泄・入浴支援への導入効果を中心に検証	WI-FI環境下でのインカム導入による介護・看護職員の連携を検証
導入台数	1階（特別浴室フロア）： 1台 2階（認知症専門フロア）： 6台 3階（要介護低フロア）： 5台 4階（要介護高フロア）： 5台 5階（デイケアフロア）： 10台 その他（介護支援専門員用）： 3台 隣接した別館（デイケア）： 11台 計41台	1階：7台 2階A：6台 2階B（認知症専門棟）：15台 浴室（専従職員用）：6台 その他（リハ職員・介護支援専門員用）：2台 計36台	認知症の利用者が多い 4階の2ユニット：9台
利用するチャンネル数	9チャンネル（フロアや担当部署等に基づきグループ化）	1チャンネル	1チャンネル
導入対象職員	介護・看護・リハ・介護支援専門員	介護・看護・リハ・介護支援専門員	介護・看護
通信方式	無線	無線	WI-FI
導入時期	2019年10月から2020年2月末まで	2019年10月から2020年2月末まで	2019年10月から2020年2月末まで

インカムの導入効果（共通事項）

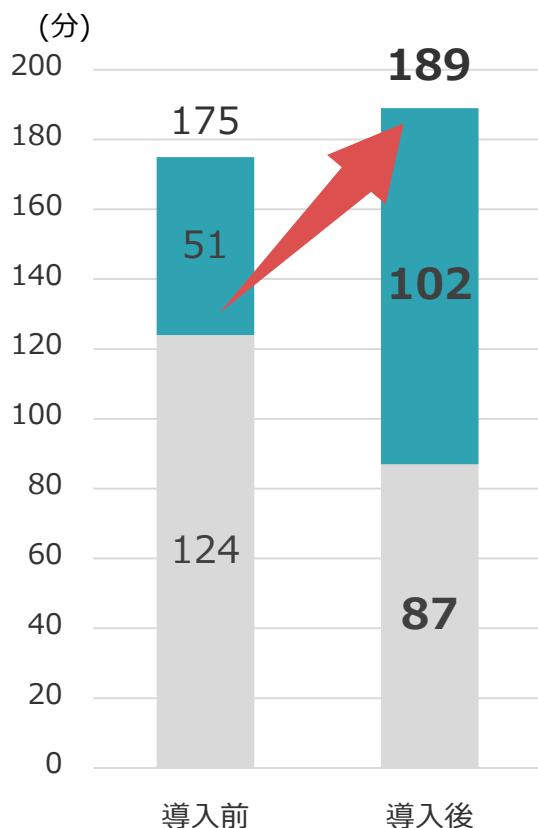
- インカムを導入した3施設に共通する効果としては、ケアを行いながら介護職員間で情報共有ができるようになり、利用者の見守りを手厚く行えることが認められた。

介護職員1人1日当たりの「見守り時間」の変化

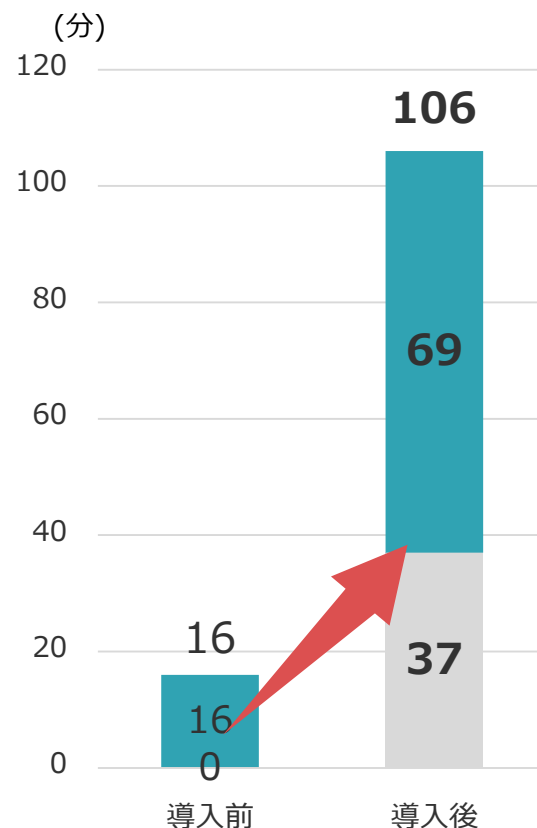
介護老人保健施設いこいの森



介護老人保健施設カトレア



小山田特別養護老人ホーム



■ : フロアの見守り

■ : 利用者の見守り・転倒など事故防止

インカムの導入効果（個別事項）

- インカムを用いた業務の効率化に関する効果については、施設によって様々であるが、とりわけ、**入浴時等における介護—看護職員間の連携の迅速化や情報共有の漏れの防止に資することが認められた。**

介護老人保健施設いこいの森

各項目について、「とてもそう思う」5点、「ややそう思う」4点、「どちらともいえない」3点、「あまり思わない」2点、「思わない」1点として、フロア別に加重平均を算出したスコア

	2階(認知症)	3階(要介護低)	4階(要介護高)	5階(通リハ)	別館(デイケア)	その他
情報共有のスピードが速くなった	4.4	4.4	3.9	4.5	4.5	4.2
情報共有の漏れが減った	3.9	3.6	3.1	3.8	3.9	3.3
記録の転記作業が減った	2.9	2.7	2.9	2.5	2.9	2.5
記録にかかる時間が減った	2.8	2.8	2.5	2.8	2.8	2.4
記録内容のぼらつきが減った	2.8	3.0	2.6	3.3	3.1	2.6
残業時間が削減された	2.5	2.6	2.7	2.8	2.6	2.9
職員間の利用者の情報共有が容易になった	4.4	4.2	3.9	4.3	4.6	4.0
スケジュールの遅れが減った	3.2	3.6	3.0	3.4	3.6	3.5
朝礼等の打合せ時間が減った	2.5	2.7	2.1	2.5	2.4	2.6
転倒・転落・骨折などの事故が減った	2.8	2.9	2.7	3.0	3.0	3.0
入浴介助の業務が効率的に行えるようになった	4.2	4.1	3.7	4.5	4.4	3.7
多職種が連携する業務（医療処置など）が効率的に行えるようになった	4.0	4.3	3.7	4.2	4.1	3.9
勤務時間内の動線が短縮された（移動時間・移動距離が減った等）	4.1	4.3	3.6	4.2	4.1	4.1
利用者に寄り添う時間が増えた	3.3	3.3	2.7	3.0	2.7	3.3

介護老人保健施設カトレア

これまでの入浴後の皮膚処置の流れ



<インカム導入前>

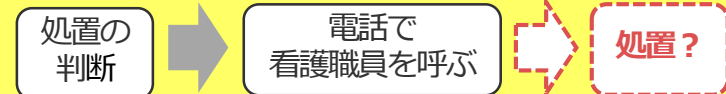
- ・電話は大抵つながらず直接呼びに行く：1～2分程度
- ・すぐに看護職員が見つからない場合：3～5分程度

<インカム導入後>

- ・**一斉同時通話により看護職員が予めやりとりを聞いており、呼び出しが：10～30秒程度あっても即座に対応可能**

小山田特別養護老人ホーム

これまでの入浴後の皮膚処置の流れ



<インカム導入前>

- ・電話で看護職員を呼ぶも直ちに來ることができない
- ・その際、担当職員は、看護職員が來るまでの間の見守りを他の職員に委ね、別の業務に転じることがあるため、処置完了が未確認となるリスクがある

<インカム導入後>

- ・**担当職員に個別に連絡せずとも一斉同時通話を用いて処置完了を伝えるだけで確実な情報共有を図れる。**

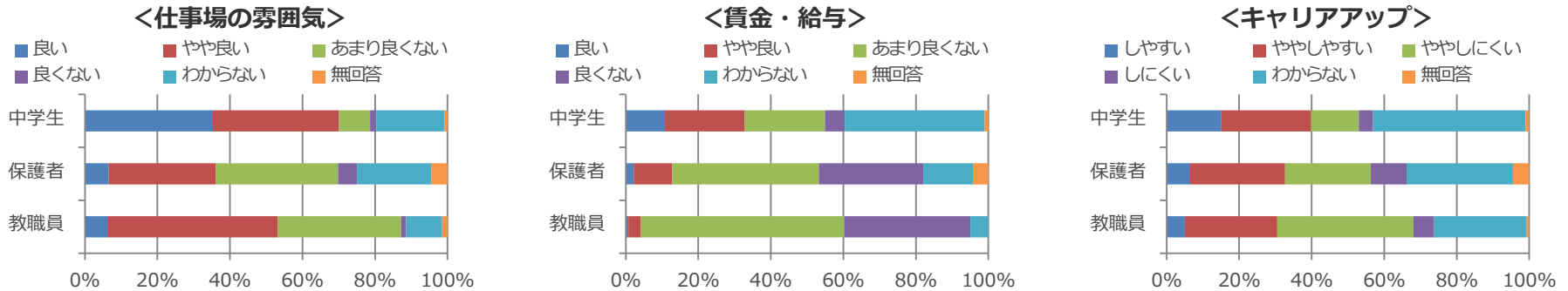
パイロット事業③ 介護現場の魅力発信の強化

- 介護現場の魅力や、職員が生き生きと働く姿などが、学生・若者に加え、保護者・教職員にも伝わるよう、**関係者の連携による新たなアプローチを含めた多面的な取組を実施。**

福祉の仕事のイメージ

※平成30年度 福祉の仕事に関する意識調査 中学生分より抜粋（三重県福祉人材センター）

- 福祉の仕事のイメージは、中学生よりも保護者・教職員の方が低い傾向。一部の項目については、「わからない」との回答も多い。



対策の方向性

正しい情報発信の強化

保護者・教職員の理解促進

従事者からの働きかけの強化

魅力発信の強化に向けて

①学校訪問等の強化

- 魅力ある取組を行っている事業者ほど多忙で、直接的に魅力を伝えられる機会が少ないことから、**魅力ある取組、生き生きと働く職員の姿、家族の「ありがとう」の言葉などを収録したPVを作成。**
- また、より多くの人々が介護福祉士を目指してもらえよう、**近年の処遇改善や学費支援の状況をPRするためのリーフレットを作成。**
- さらに、**介護福祉士の若手有志が今般、新たに結成した「次世代会」により職員の活力や熱意を直接伝える取組を行う。**
- これらを学校訪問、ホームルーム、イベント等の際に、学生、保護者、教職員に見てもらおう。

②教員のイメージ改善

- 学校における進路指導等の際に、教員の抱く仕事に対するイメージが、学生に伝播することも想定される。
- 教員は教員免許取得の際に、福祉施設で5日間、介護等の仕事を体験。この体験を通じて介護等の仕事に対するイメージが形成される可能性がある。
- このため、**体験受入施設の職員、教育委員会、学校関係者等からなるWGを立ち上げ、受入施設向けのプログラム例などを作成。**介護等の体験の場を活用したイメージアップを促進する。

③介護技術コンテストの拡充

- 介護技術コンテストについて、従来の一般公募に加え、関係団体からの推薦者を新たに加えるとともに、拡大したブロック数による予選会を経て決勝会を行うなど、**コンテスト自体の拡充を図る。**
- また、コンテストの優勝者には1年間、**「みえ介護魅力発信者」として、三重県内の各地の介護イベントに出向いて介護の仕事の魅力を伝えてもらう。**
- 加えて、**決勝戦の様態等を収めた動画・冊子を作成し、県内の介護イベントの際に配布する。**

学校訪問等の強化

- 対象者別に作成したプロモーションビデオ、介護の仕事に関する正しい情報を発信するためのガイドブック・リーフレットを作成するとともに、介護福祉士の若手有志の協力を得て、学校訪問等の取組を強化。

プロモーションビデオ

- 「小学生向け」「中学・高校生向け」「教職員・保護者向け」の3ストーリーを作成し、個々の対象者別に視聴することも、全てを通して1つのドラマとしてみることも可能。

【小学生向け】



【中学・高校生向け】



【教職員・保護者向け】



YouTube
でも発信！



ガイドブック

- 仕事の内容について、現場で働く職員の本音を交えて掲載

【ガイドブック】



リーフレット

- 仕事の給与・学費支援や残業時間の状況等を統計調査を交えて掲載

【リーフレット】



介護福祉士の若手有志の協力

- 三重県介護福祉士会に若手有志からなる「次世代会」を結成し、職員の活力や熱意を直接伝える。



＜次世代会＞
30代を中心に男性6名、女性5名が参画

学校訪問 Action!

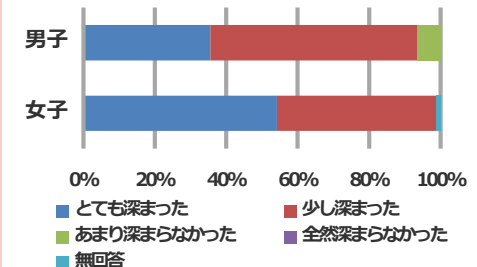
- 2019年11月～2020年1月に、中学校2校、高校1校へ訪問。
- 合計で生徒353名、教職員25名に対してPR活動を実施。

＜A中学校での訪問の様相＞



＜A中学校でのアンケート結果＞

Q：福祉の仕事に関する興味・関心や理解が深まりましたか？



- 教員免許取得時の介護施設等での体験について、学生用と受入施設用で共通の形式で手引書を作成。試行的導入を経て内容を検討。
- 介護技術コンテストについて、大会の様子を収めたプロモーションビデオ等を作成。その後、大手ショッピングモールで行った介護フェアにおいてPRを実施。

教員免許取得時の介護施設等での体験の手引書

- 介護施設等での体験の手引書について、学校や受入施設等の関係者からなるワーキンググループを設置し、「学生用」と「受入施設用」で共通の形式で作成。

【学生用の構成】	対応	【受入施設用の構成】
①体験の目的	←→	①体験の目的
②体験を通じて得られること	←→	②体験の効果
③体験前の準備・予習のポイント	←→	③体験受入前の確認・検討事項
④体験にあたって	←→	④体験受入プログラムの検討にあたって
⑤体験後の振り返り	←→	⑤体験後の振り返り

介護技術コンテストのプロモーションビデオ等

- 予選地区を増やすなど大会自体の拡充を図るとともに、大会の様子を収めたプロモーションビデオとダイジェストレポートを作成。

【プロモーションビデオ】



YouTube
でも発信！



【ダイジェストレポート】



試行的導入 Action!

- 2019年12月に県内の2施設で試行的に導入し受入を実施。その際の意見を最終版へ反映。

＜試行的に導入した施設の主な意見＞

- ・ 手引書があることで学生に伝えるべきことが明確になった。
- ・ 学生用と内容が連動しているため、一緒に確認しながら進めることができた。
- ・ プログラム例は、具体的なものが掲載されている方が分かりやすいのではないかと。

介護フェアでのPR

Action!

- 2019年11月に大手ショッピングモールで行った「みえ介護フェア」において、プロモーションビデオの放映に加え、入賞者による介護技術のデモンストレーションを実施。



今後の三重県の介護人材確保対策について

- 今後の三重県の介護人材確保については、**パイロット事業の成果**と**県による取組の拡充**を組み合わせ、総合的な対策を強化。

攻め (新規人材確保)

若者の参入促進

- パイロット事業で作成したツール等を活用し、学校訪問や教員のイメージ改善などを更に推進。
- 貸付原資の追加による介護福祉士修学資金貸付の安定的実施

元気高齢者の参入促進

- 企業訪問による働きかけと入門的研修の実施を組み合わせることによる企業退職者の参入促進

外国人材の参入促進

- 外国人留学生を雇用する介護施設が支給する奨学金への支援
- 外国人技能実習生への集合研修の実施

守り (離職防止)

介護助手の普及展開

- パイロット事業の結果に基づく効果的な導入方法の周知
- 事業所向け導入支援マニュアルを活用した他施設への普及展開

ロボット・ICTの導入

- パイロット事業の結果に基づくインカム導入の有効性の周知
- ICT導入支援事業の新規実施によるインカムを含む機器の導入支援

処遇改善

- 2019年10月からの処遇改善に関する統一化された様式の周知と取得促進